

ひらつかいん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '86 12月号

☆行事案内☆

12月

6	土	古文書講読会
7	日	自然観察会（酒匂川）
13～14 天体観察会（七国荘）		
13	土	石仏を調べる会
20	土	古文書講読会 土曜観察会
21	日	お飾りをつくる会 継続行事（寄贈品コーナー）
2～1/30 「錦絵」展 ～27 プラネタリウム観測の鬼「チコ・ブ ラーエ物語」		

62年1月

7	水	星を見る会「冬の星座を見よう」
10	～2/22	プラネタリウム ハレー彗星P art 4
10	土	石仏を調べる会 土曜観察会

年末年始休館のお知らせ

今年も残り少なくなりました。博物館の年末年始の休館日は次の通りです。

12月28日(日)から1月5日(月)まで

来春は6日の火曜日から開館いたします。お元気で良い年をお迎えください。来年もよろしく！

●星を見る会「上弦の月と冬の星座」

望遠鏡で上弦の月の表面を眺めます。

日時 1月7日(水) 17時30分～19時

場所 博物館科学教室～屋上

参加は自由です。寒くないようにしっかり身仕度してきて下さい。空の様子は大分変わりました。オリオン座におうし座、おおいぬ座にこいぬ座、来年の干支の"うさぎ座"も、かわいらしく空にのぼってきました。

●体験学習「星座早見盤を作ろう」

星の見える方角や時刻を調べるときに便利な星座早見盤を作り、星空の下で使ってみます。

日時 1月17日(土) 16時～19時

場所 博物館科学教室

参加費 材料費として1人200円

申込み 往復はがきに住所・年齢・氏名記入の上博物館まで。締切は1月7日(必着)。多数の場合抽せんで30名までとします。

●寄贈品コーナー(1階)

錦絵 一渡辺コレクション

一昨年、渡辺家より寄託(一部寄贈)を受けた錦絵のうち、尾形月耕(安政六年生れ)の作品を中心に展示します。

期間 12月2日～62年1月30日

途中、展示替えをしますのでお楽しみに。



開館 10 周年記念 第 1 回平塚市博物館 公募写真展

写真募集

- ・変わりゆく地域の姿を未来に……
- ・地域の自然や文化についての写真を募集します。
- ・入賞・入選写真は特別展で展示するだけでなく、博物館資料として保存し、ひろく活用します。

●課題 「相模川流域の自然と文化」
相模川流域各地の生活の様子や自然の姿の写真を募ります。
(例えば農業や漁業などの仕事の様子、祭り、年中行事や野鳥の生態、四季の草花など博物館資料として活用できる写真)

●募集期間 昭和 61 年 11 月 1 日から昭和 62 年 1 月 31 日(必着)

●募集作品 カラープリント、モノクロ写真、組写真のいずれかに題名をつけて応募してください。

<サイズ> キャビネ相当サイズ

<撮影年月> 撮影年月日が明らかな写真なら撮影期日は問いません。

<応募点数> 1 人何点でもご応募ください。

*応募作品の返却はいたしません。

●応募方法 応募票の所定事項を記入し、作品に添えて博物館に郵送、またはご持参ください。

(応募票は募集パンフレットにあります。)

●賞 入賞作品 10 点
入選作品 20 点

(入賞・入選作品にはそれぞれ賞品を贈呈します。)

●審査 主催者および主催者が委嘱する審査員で行います。

●発表 応募者各自に郵便で通知します(2 月上旬に発表)。

入賞・入選作品への賞品の贈呈は指定する期日に、作品ネガと引き換えに行います。

ネガは「第 1 回平塚市博物館公募写真展 - 相模川流域の自然と文化 -」の展示写真として引伸し後、希望者には返却します。

●版権 入賞・入選作品の版権は平塚市博物館に属します。今回の特別展だけでなく、今後、展示や出版物などひろく利用させて頂きます。

●期日 昭和 62 年 3 月 8 日～4 月 8 日

●会場 平塚市博物館 特別展示室



ちょっと出掛けでみませんか

今月は目先きを変えて、県内博物館の催しものから拾ってみました。12 月下旬から来年 1 月上旬にかけて開催されます。

○県立神奈川近代文学館

大衆文学展「よみがえるヒーローたち」展

中里介山、大仏次郎、吉屋信子、吉川英治、林不忘、長谷川伸、直木三十五、獅々文六、山本周五郎……ゆかりの文学者の原稿、ノート、日記、書簡、挿絵原画、遺品など 1300 点によるわが国初めての本格的展観です。ただし 1 月 7 日(日)までですので、お間違えのないように。

文学館の電話: 045(622)6666

○横浜こども科学館

科学バラエティショー「宇宙への道」

広い宇宙、銀河星雲や星の誕生について、劇団ブラックテントの役者さんと子どもたちとで、上演します。冬休みのための特別企画。

期間: 12/23・24・25・26・27
1 日に 2 回上演します。

1 回目 13 時半～14 時
2 回目 15 時～15 時半

場所: 3 階サイエンスシアター (無料)

*ただし入館料は次の通りです。

大人 400 円	プラネタリウム 600 円
小人 200 円	中人以下 300 円

*12 月 16 日から宇宙劇場において、プラネタリウム「超新星の謎」が上映されます。

電話 045(832)1166

○藤沢市古文書館

「大庭の古文書展」

期間 62 年 1 月 31 日まで

開館 9 時から 16 時半まで

休館 祝日・日曜、12/29～1/3

電話 0466(24)0171

弥生時代のくらし

※二階展示コーナー18

私たちの生活の母胎となったのが縄文時代であったのに対し、弥生時代（B.C.300～A.D.300年）は基盤を築いた時代です。つまり、稻作農耕が生活の根幹となったからです。この農耕は大陸から北部九州に伝播され、中期には寒冷地方の青森県にまで急速に普及していきました。

穀痕の土器は語る 見どころは岡崎上ノ入遺跡から出土した穀痕のある土器です。穀痕の観察から日本型と同定されました。それは、日本型の条件として、芒のあること、格子目があること、5.8mm以上の長さをもっていたからです。穀痕のある土器は赤坂遺跡や王子台遺跡からも出土しています。これらは弥生時代後期に比定され、この時期にかなり稻作が普及していたことを示しています。市内で最も古い弥生時代の遺跡は王子台遺跡や遠藤原遺跡

です。ここからは中期の須和田式土器が出土しています。中期の段階は、台地に集落が形成され、谷戸が耕地として利用されていたようですが、後期になると中原上宿遺跡・南原C遺跡・大原遺跡のように、砂丘や疊田・小鍋島地域などの自然堤防沿いに集落が進出し、金目川水系沿いの後背湿地が耕地の対象となっていました。

大陸系の石器 稲作技術の伝播とともに、金属器や紡織機をはじめ、様々な道具が大陸から伝わってきました。左の写真は弥生時代を代表する石器で、太形蛤刃石斧、柱状片刃石斧といわれるものです。その祖形は朝鮮半島と考えられ、主に木の伐採から加工のため、鉄器が普及するまで重要な役割を果した道具です。中原上宿遺跡では、大陸系の磨製石が出土しています。戦さに使われたものでしょうか。

穀を入れた壺 平塚市ふじみ野から出土した壺で、大変優美な形をしています。典型的な弥生式土器です。器高32cm、口径25cm、縄文以外の所は赤く塗られています。壺は一般に貯蔵具と考えられていますが、何を入れたのでしょうか。水・酒などの液体も考えられますが、穀を入れて保存したとも考えられます。

穀は集落を支える大切な食料源だからです。

身近にある道具や毎日食べている米にも歴史があります。そのルーツを探るのも一つの見方かと思います。（明石）

